

# 地域の発展に尽力

岡山大 主な退任教授



臓器移植倫理

実態世に問う

栗屋 剛さん

大学院医歯薬学  
総合研究科

卵の殻を作る

仕組み研究

山本 敏男さん

大学院医歯薬学  
総合研究科

現実に即した

企業動向分析

春名 章二さん

大学院社会文化  
科学研究科

塩害の対応策

中国で調査

赤江 剛夫さん

大学院環境生命  
科学研究科



生命倫理学が専門。インドやフィリピンでの臓器売買について現地調査するなど臓器移植をめぐる倫理的な問題を研究してきた。中国の死刑囚か

専門は組織学。雌鳥が自らの骨を削って卵の殻を作るメカニズムを調べ、女性の閉経後の骨密度減少の対策に応用できないかを検討してきた。

「産業組織論」が専門。生産量や投入する労働力などをめぐる企業の意思決定や行動パターンを分析してきた。

干拓地での海水の浸入量を測ったり、効果的に除塩したりする手法を研究。中国北部の農地では、塩害の発生メカニズムを20年以上調査し、対応策

らの臓器摘出を明るみに出した調査は国際的に注目を集め、米連邦議会でも証言した。「見知らぬ地での調査は危険を伴うが、人体の『商品化』が進む実態を世に問いたかった」と言う。

「基礎研究は成果が出るまでに時間がかかるが、何かを発見した時の喜びは大きい」と語る。授業では、学生に対して丁寧になり過ぎないよう心掛けた。「自ら疑問を持ち、調べることに意味がある。主体性が成長につながる」。4月から

者の間で従来、考慮されなかった景気や価格の変動などを加味し、より現実在即した形で企業の動向を見通してきた。

学生にはグローバルな視点を求める。「特定の地域での経済の動きが、地球の裏側にまで影響する可能性がある時代。世界各地の変化を敏感に感じ取ってほしい」と

研究を続け、埋もれた問題を一つでも多く掘り起こした」と

も引き続き、特命教授として週2回講義を受け持つ。

「研究に必要なのは、地道な積み重ねと人とのつながり」と

多くの研究者仲間や学生たちと現場調査や室内実験を繰り返してきた。後進には「研究に必要なのは、地道な積み重ねと人とのつながり」と

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。